

小牧山関連年表

時代	できごと
鎌倉・室町時代	小牧山の西中腹から麓にかけて寺院が存在。
戦国時代	永禄6（1563） 織田信長が小牧山城を築き、清須から居城を移す。南側に城下町を整備する。
	永禄10（1567） 信長、美濃の斎藤龍興を稲葉山城（現在の岐阜城）で下す。→「岐阜」と改称し、小牧山城から居城を移す。小牧山城は廃城となる。小牧村庄屋の江崎氏が小牧山守となる。
織豊時代	天正12（1584） 小牧・長久手の合戦で、織田信雄・徳川家康連合軍が小牧山城跡を改修して陣城を築く。→秋には和睦して再び廃城となる。
江戸時代	尾張徳川家の所領となり、神君家康ゆかりの地「御勝利御開運の御陣跡」として、江崎氏に管理させ、一般の入山を禁止するなど大切に保護するようになる。
	元和9（1623） 尾張藩の名古屋と中山道を結ぶ上街道の整備に伴い、城下町の名残の町場を現在の小牧市街地へ移転。城下町は田畑となる。
明治時代	明治2（1869） 版籍奉還により、官有地となる。
	明治6（1873） 県が小牧山を小牧公園として一般に公開する。
	明治21（1888） 創垂館が建設される。
	明治22（1889） 尾張徳川家の所有となり、一般の入山が禁止される。
昭和時代	昭和2（1927） 国の史跡に指定される。
	昭和5（1930） 尾張徳川家から小牧町へ寄贈される。
	昭和43（1968） 小牧市歴史館が開館する。
	昭和61（1986） 初めて発掘調査を実施する。
平成時代	平成16（2004） 東麓に土塁、堀、井戸などを復元整備する。
	平成31（2019） れきしるこまき（小牧山城史跡情報館）が開館する。
令和時代	令和3（2021） 主郭地区の整備が始まる。創垂館の保存修理工事が完了する。
	令和5（2023） 小牧市歴史館が小牧山歴史館としてリニューアルオープンする。

続日本100名城 近世城郭のルーツ

小牧山城 歴史探訪ガイド

小牧山周辺アクセスマップ

住所

■愛知県小牧市堀の内一丁目地内

公共交通機関

■名鉄小牧線「小牧駅」から西へ1.7km

（小牧山まで徒歩約20分）

■名鉄バス「小牧市役所前」・

こまき巡回バス「小牧市役所」、「小牧山前」下車

車

■小牧インターより車で5分

■小牧市役所駐車場

・料金：無料

■小牧山北駐車場（一般車駐車場）

・料金：30分100円、24時間1,000円

（最初の2時間は無料）

・台数：51台

■バス専用駐車場

・料金：無料

・台数：4台（大型バスの場合）



※お問合せ先／小牧市教育委員会事務局 小牧山課 TEL (0568) 76-1623

尾張平野北東部に立つ小牧山は、標高85.9m、総面積約21haの小山です。四季折々に移り変わる自然の美しさにあわせ、年に何度も多くの人々が集う催事が開かれており、小牧市のシンボルとして市民に親しまれています。

小牧山が「小牧山城」として歴史の表舞台に現れたのは永禄6年（1563）です。織田信長が初めて自らの手で築城し、居城としました。4年後の永禄10年（1567）、信長は稲葉山城（後の岐阜城）に居城を移し小牧山城は廃城となりましたが、天正12年（1584）、「小牧・長久手の合戦」がおきると、織田信雄・徳川家康連合軍が小牧山の城跡に大規模な改修を加え陣城を築き、本陣としました。江戸時代に入ると、小牧山は家康ゆかりの地として保護されたため、現在でも多くの堀や土塁の跡が残っています。

小牧山に残る歴史の足跡を探訪し、「小牧山城」として歴史に名を残した当時に思いを馳せてはいかがでしょうか。

愛知県 小牧市

Komaki